

# 平成27年度病害虫発生予報第3号

平成27年6月1日  
愛知県

## 普通作物

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
イネ	いもち病 (葉いもち)	平年並	県全域	前年の穂いもち発生量は平年並 5月下旬現在、発生を認めていない(平年並) 6月の降水量はほぼ平年並	± ± ±
	紋枯病	やや多い	県全域	前年の発生量は多い 6月の降水量はほぼ平年並	+ ±
	縞葉枯病	平年並	西三河地域	前年の発生量は平年並 ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は平年並	± ±
	ニカメイガ	平年並	県全域	予察灯及びフェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
	ツマグロヨコバイ	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±

### ・防除対策

#### [イネ・紋枯病]

前年発生が多かったほ場では、ほ場内での発生状況に注意し、中干し後の入水時に漏水などがないようにした上で、リンバー粒剤、モンカット粒剤、モンガリット粒剤などで防除しましょう。防除適期は出穂20日前頃ですが、発生状況により前後させましょう。

#### ・留意事項

イネいもち病は気温20から25℃で降雨が続くと発生が多くなります。発生を確認したら、速やかに防除しましょう。また、補植用苗は本田でのいもち病の伝染源になるので、補植終了後は直ちに除去しましょう。

コムギほ場でミナミアオカメムシの発生を確認しています。詳しくは本日発表の「ミナミアオカメムシ情報第1号」を参照してください。

## 果樹

### ・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ウンシュウミカン	そうか病	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	黒点病	やや少ない	県全域	5月の枯枝の孢子形成量はやや少ない 6月の降水量はほぼ平年並	— ±
	ミカンハダニ	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並	±
	アブラムシ類	やや少ない	県全域	5月下旬の発生量はやや少ない	—
	チャノキイロアザミウマ	やや多い (やや早い)	県全域	イヌマキにおける5月下旬の発生量はやや多い 粘着トラップにおける誘殺数は平年並	± ±
ナシ	黒星病	多い	県全域	5月下旬の発生量は多い 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	アブラムシ類	少ない	県全域	5月下旬の発生量は少ない	—
モモ	せん孔細菌病	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	黒星病	平年並	県全域	4月の発病枝率は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	灰星病	平年並	県全域	4月の発病花率は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	ナシヒメシクタイ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
	モモハモグリガ	平年並	尾張地域	5月下旬の被害葉率はやや低い フェロモントラップにおける誘殺数は尾張地域ではやや多い	— ±
	やや少ない	西三河地域及び東三河地域	5月下旬の被害葉率はやや低い フェロモントラップにおける誘殺数は西三河地域及び東三河地域では少ない	— —	
ブドウ	べと病	平年並	県全域	5月下旬現在発生を認めていない(平年並) 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	黒とう病	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	晩腐病	平年並	県全域	前年の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
ブドウ	チャノキイロ アザミウマ	平年並 (やや早い)	県全域	イヌマキにおける5月下旬の発生量は平年並 粘着トラップにおける誘殺数は平年並	± ±
カキ	炭疽病	平年並	県全域	前年秋の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	角斑落葉病 円星落葉病	やや少ない	県全域	前年秋の発生量はやや少ない 6月の降水量はほぼ平年並	－ ±
	うどんこ病	やや少ない	県全域	5月下旬の発生量はやや少ない	－
果樹共通	カメムシ類	やや少ない	県全域	越冬成虫密度はやや低い フェロモントラップ及び予察灯における誘殺数は平年並からやや少ない	－ ±～－

#### ・防除対策

〔ウンシュウミカン・チャノキイロアザミウマ〕

本日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第2号」を参照してください。

〔ナシ・黒星病〕

発病した葉や果実は取り除き、園外に持ち出して処分しましょう。フルーツセイバーやインダーフロアブルなどで防除しましょう。

#### ・留意事項

第1世代成虫の誘殺時期と有効積算温度から、ナシヒメシンクイの第2世代ふ化幼虫の防除適期は、豊田では6月10日頃で前年より5日程度早まると予想します。他の産地においても防除適期が前年より早まるものと推測されますので、適期を逃さないように防除しましょう。

気温が高く推移しているため、有効積算温度から予測したフジコナカイガラムシの第1世代ふ化幼虫の防除適期は、5月中旬に算出した予測日（5月19日発表「フジコナカイガラムシ情報第2号」）より最大で3日早くなり、前年より4日から7日早くなります。各地の防除適期は、名古屋で5月28日、豊田と蒲郡で5月31日、愛西、豊橋と伊良湖で6月2日、南知多と岡崎で6月3日、新城で6月6日です。

## 野菜

#### ・留意事項

施設キュウリでは、ミナミキイロアザミウマが媒介するキュウリ黄化えそ病（MYSV）が、施設トマトでは、タバココナジラミが媒介するトマト黄化葉巻病（TYLCV）が発生しているほ場があります。発生ほ場では次作への伝染を防ぐために、栽培終了後、植物残さをほ場外に持ち出す前に施設を密閉して、媒介虫を死滅させましょう。

施設ナスでも、ミナミキイロアザミウマが発生しているほ場では、次作への発生源とならないように、栽培終了後に施設を密閉してミナミキイロアザミウマを死滅させましょう。

## 花き

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
キク (露地)	白さび病	平年並	平坦部	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
		平年並	中山間部	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±

### ・留意事項

キク（露地）では白さび病の発生が多いほ場があります。被害葉を切除して適切に処分するとともに、系統の異なる農薬でローテーション散布をしましょう。

豊川市のキク（露地）ほ場では、フェロモントラップにおけるオオタバコガの誘殺数が増えています。オオタバコガ幼虫による生長点への加害を防ぐため、ほ場への成虫の飛来及び幼虫の発生に注意して、適宜防除を行いましょう。

### 参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台5月28日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。日照時間は、平年並または高い確率とともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：20% 平年並：30% 高い：50%

〔降水量〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%

〔日照時間〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%

### 農薬危害防止運動実施中（6月1日から8月31日まで）

今年度の重点事項は次の3つです。

- 1 農薬ラベルの十分な確認
- 2 農薬の飛散防止
- 3 農薬の盗難・紛失等の防止